

**市民と野党の共闘で政権交代実現、
なにより命、住み続けられる京都北部をご一緒につくりましょう（案）**

※「日本共産党京都5区政策・山内健プラン」の第一次案を発表します。みなさんからご意見やご要望をいただき、さらに練り上げ完成させたいと考えています。ぜひお聞かせください。

はじめに——コロナ禍は、命を守り、暮らし・営業を支える政治を痛切に

求めています。政権交代を実現し野党連合政権で新しい政治を

コロナ禍は、医療をはじめ住民の暮らしを支える体制がもともと弱い京都北部に大きな打撃を与えました。私は科学的知見にもとづく対策と、「商売をやめる人を一人も出さない」、立場での支援を強く求め、①迅速なワクチン接種と大規模検査、②暮らし・営業を支える給付金支給と十分な補償、③医療機関への減収補填と財政支援を求めてきました。

また私は命、暮らし・営業を守る提案を積極的にかかげ、党国会議員団、党京都府会議員団、北部5市2町の党議員団と協力して、国の支援策の拡充とともに次の諸点を実現してきました。

- * 高齢者施設に入所する人や働く人へのPCR検査の実施（京都府）、検査キット購入費補助（与謝野町）。
- * 国・府の緊急事態措置協力金の受給対象外の事業者への応援事業（福知山市・綾部市など・法人50万円、個人30万円など）。
- * 福知山公立大学や舞鶴工業高等専門学校の学生など、コロナの影響で生活に困っている人々への食料支援活動に、青年・労働団体のみなさんと協力してきました。これらは草の根で住民と結びつき、命、暮らし・営業を守る日本共産党ならではの「実績」です。

コロナ禍を経験した今、私は、

- ①自治体・学校・公共機関の合併や統廃合、病院・ベッド削減をやめ、社会に十分なゆとりを取り戻す新しい政治を実現し、京都北部で広がる持続可能なまちづくりを支える政治に転換します。
- ②原発ゼロ・2050年二酸化炭素排出ゼロを実現し自然と共生できる社会をめざします。
- ③ジェンダー不平等をなくし誰もが大切にされる社会を実現します。
- ④核兵器禁止条約を批准し、軍事費を削減して暮らし・営業を支える財源にまわします。

今度の総選挙は絶好のチャンスです。政権交代し野党連合政権で新しい政治を切り拓きましょう。

1、何よりもコロナから命と健康を守る政治を実現します

(1) 医療・福祉を削減する政治をやめさせ、充実させる政治へ転換します。

- * コロナ陽性者の「原則自宅療養」の方針を撤回させ、各医師会の協力を得て無症状者・軽症者を医療につなぐ「臨時施設」「仮設病床」を自治体ごとに設置するよう求めます。

*すべての医療機関を対象にその費用や減収分の補償を拡充し、安心してコロナ診療にあたるようにします。高齢者施設などでの感染対策に十分な支援を実現します。

*京都北部ではもともと医療体制が弱く、「救える命が救えない」と言われています。それなのに舞鶴赤十字病院、市立福知山市民病院大江分院などを再編・統廃合する計画が打ち出されていることは許せません、撤回を求めます。京都北部の医師数は人口1000人当たり2.03人（京都市・乙訓3.94人）、看護師数は10.5人（京都市・乙訓11.2人）です。この格差をなくすために自民党政権の社会保障削減路線を転換し、社会保障給付（GDPの22.7%）をドイツ（27.8%）、スウェーデン（26.4%）、フランス（32.2%）程度に引き上げます。

(2) 大規模な感染拡大を防ぎ、保健衛生を担う体制を拡充します。

*感染の伝播を断ち切るために、北部の実情に応じて規模を拡大した検査を実施します。感染が広がっている事業所、高齢者施設、障がい者施設、保育所、学校などで、患者・利用者・働く人々に、定期的・頻回のPCR検査を実施する体制を築きます。

*宮津、綾部の保健所を復活し、職員の計画的採用・拡大を求めます。

(3) 「福祉のまちづくり」を北部全域に広げます。

*与謝野町などで努力されてきた「福祉のまちづくり」を北部全域に広げ、高齢者の生活を保障するとともに、若い人の働く場を確保し安心して暮らし続けられるまちづくりをすすめます。

2、コロナで誰一人廃業させない——経済再生は地元企業と農林水産業を中心に。

暮らし・営業・地域を守る経済対策を

(1) 今、頑張っている中小企業をつぶさないことが最大の経済対策です。コロナで商売や農林漁業をやめる人を一人も生まないために、第二弾の持続化給付金の支給を求めます。緊急に消費税を5%に引き下げます。経営が悪化している中小企業には納税免除を実現します。

(2) コロナ禍からの経済再生は地元企業と農林漁業を中心にすすめます。

*今秋収穫されるコメが「一俵（60kg）9000円台になる」とも予想される米価を支えるために、政府が買い上げて支えることを求めます。農業者戸別所得補償制度を復活し、充実させます。

*魚価を支えます。漁業共済掛け金の負担が増えないよう支援します。

*農業・林業・漁業の一次産業を基幹産業にすえ、37%台にまで落ち込んだ食料自給率を50%まで回復させることをめざします。政府の責任で米価を支えるとともに、家族農業への支援を強めます。

(3) 「二年続けて海水浴場閉鎖」「結婚して30年、初めて年末年始のお客さんがなかった」——北部の主産業の一つである観光業への打撃は深刻です。

*家賃や駐車場代、冷蔵庫などのリース料など、固定費への支援を拡充します。

*地域に根差した観光業を応援し、地域循環型で持続可能な観光業が発展するよう支援します。

3、若者、子育て世代の暮らしを応援します。

- (1) 8時間働いたら普通に暮らせる、家族一緒に晩御飯を食べることができる働くルールをつくります。
 - *最低賃金をただちに時給 1500 円に引き上げます。介護・障がい者福祉・保育で働く人の給料を月額 2 万円引き上げ、ケア労働者の待遇を思い切って改善します。こうして大都市と地方都市との賃金格差をなくします。その際、中小企業への支援とセットですすめます。
 - *Iターン、Uターン支援をさらに強め、制度を使いやすくします。
- (2) 子育て支援を強めます
 - *小中学校の給食費を無償にします。
 - *子どもの医療費無償化を、高校卒業まで拡充します。
- (3) 子どもや学生の学びを保障します
 - *子どもや教職員が、自宅でも毎週 2 回 PCR 検査ができる仕組みを構築するよう政府に求めます。
 - *40 年ぶりの 35 人学級実現をさらに前進させる少人数学級実現で「3密」を避けるとともに、子どものココロに寄り添う学校づくりをすすめます。
 - *大学・専門学校に通う学生へ学費を半減し、本格的な給付奨学金を創設します。学生への支援は、国公立、私立の四年制大学だけでなく、短大、専門学校などすべての学生を対象にすることを求めます。
- (4) スケートボードやバスケット、ダンスなどストリートスポーツのための公共施設、「にっこりあ（宮津市）」や「あそびあむ（舞鶴市）」のような子育て支援施設の新設など、若者・子育て世代の願いに応える取り組みを応援します。

4、ジェンダー不平等をなくし、一人ひとりが大切にされる社会をめざします。

- (1) コロナで休業となれば、まっ先に仕事を失うのは非正規で働く人々、特に女性です。家族が陽性者や接触者となり自宅待機となれば、そのケアも多くは女性が担っているのが現実です。コロナ禍は日本のジェンダー不平等を浮き彫りにしました。ジェンダー平等社会を築くことは急務です。その実現へあらゆる努力に取り組みます。
- (2) 男性と女性の賃金格差をなくします。このことはジェンダー平等の土台です。
- (3) 結婚する際、夫婦別姓を当事者が選択できるように民法を改正します。同性婚を認めるよう民法改正、パートナーシップ条例・制度を推進します。
- (4) 国や自治体など社会の意思決定の場のジェンダーバランスを見直し、女性の参加、多様な立場の人々の参加を促進します。

5、安全・安心・平和に暮らせる環境整備を

- (1) 災害からいのち・暮らしを守ります。
 - *豪雨災害が頻発しています。由良川築堤・宅地の嵩上げなど緊急治水対策事業の完了を踏まえ、山野の保水力を高める対策、田んぼダムによるなど遊水機能の整

備・拡充など総合的な治水対策を進めます。京都府管理河川や中小河川の整備をすすめて、内水対策をすすめます。

*急傾斜地、盛り土など、土砂災害の危険地域の安全監視を強めます。

*老朽化した橋の補修など、防災をすすめる公共事業を計画的に推進します。

(2) 原発ゼロの社会を直ちに。二酸化炭素削減へ思い切った緊急行動を。

再生可能な自然エネルギーを中心とした社会を

*高浜・大飯原発の再稼働に反対し、そのまま廃炉にします。稼働開始から40年を超えた原発の運転は認めません。過酷事故に備え実効ある避難計画の策定を国・自治体に求めます。希望者への安定ヨウ素剤の事前配布を求めます。

*省エネと再エネ、舞鶴火力発電所の運転停止などで、2030年までに二酸化炭素排出を50~60%削減することをめざします。

*太陽光や風力、地熱や潮力、木質チップなど京都北部は再生可能エネルギーの「宝庫」です。住民の合意と参加で開発をすすめ、雇用の場をつくり、暮らしのなかに再生可能エネルギーを取り入れます。

*大規模ソーラー発電や大規模風力発電に名を借りた乱開発を規制するため、環境アセスメントを抜本的に強化します。

(3) 核兵器禁止条約を批准し、憲法9条を生かして北東アジアに平和の共同体を

京都北部を環日本海への平和の玄関口にします。

*核兵器禁止条約を批准し、世界から核兵器をなくす取り組みの先頭に立つ政府をつくります。

*京丹後市経ヶ岬に設置されたアメリカ軍のXバンドレーダーの運用中止と基地の撤去を求めます。アメリカ軍による陸上自衛隊福知山射撃場での射撃訓練の中止を求めます。陸・海自衛隊と米軍の軍事の一体化を許しません。

最後に——市民と野党の共闘を発展させ、政権交代・野党連合政権を実現し

暮らし続けられる京都北部を一緒に作りましょう

自民党政権のもとで京都北部では、人口減少を理由に市町村合併の強行、小中学校統廃合、公共施設の閉鎖がすすめられています。もともと医療の体制がぜい弱です。輸出大企業の利益のために農業が犠牲にされ「コメをつくって暮らしていけない」状況です。コロナ禍のもこうした政治の矛盾が噴出していています。米軍レーダー基地の設置、40年を超えた原発の稼働など平和・安全が脅かされています。それだけに「暮らし続けたい」の願いが一層強まっています。

この願いはどうすればかなうのでしょうか。私は着実に前進してきた市民と野党の共闘をさらに発展させ、政権交代を実現し野党連合政権をつくることに展望があると確信します。

それには市民と野党の共闘で政治を変える方針を誠実に追求し、保守の立場にある人々とも協力・共同を強め、一生懸命努力している日本共産党が躍進することが最も確かな力です。私は京都北部からその流れがさらに広がるよう全力を尽くします。一緒に政権交代を実現し、住み続けられる京都北部を作りましょう。

以上